

平成 24 年 10 月 30 日
生涯学習・文化財課

福井ふるさと文学館(仮称)整備の状況について

1 これまでの状況

- ・ 6月に第1回基本計画策定委員会を開催し、基本的考え方について協議
- ・ 10月、津村節子氏の資料を県が一元的に保存・活用することについて、津村氏、仁愛女子短期大学、県の三者が合意

【資料1】津村節子先生からの資料の寄贈について

2 第2回策定委員会について

- ・ 本日の策定委員会において、これまで収集してきた資料を展示や教育普及等で活用する具体策について協議

【資料2】常設展示で対象とする時代と作家

【資料3】県内における資料収集状況

【資料4】かごしま近代文学館および青森近代文学館の展示構成

【資料5】展示の構成

【資料6】教育普及活動

3 今後のスケジュール

平成24年度 基本計画策定

平成26年度 開館予定

《参考》

福井ふるさと文学館(仮称)の整備について

目 的 ふるさとゆかりの作家や福井県を扱った作品の資料を収集し、紹介することを通じて、文学への親しみを深め、県民の文学意識の高揚を図る

設置場所 県立図書館内(郷土資料・環日本海コーナー)

津村節子先生からの資料の寄贈について

1 経緯

津村先生は、「炎の舞い」「白百合の崖(きし)」などの直筆原稿をはじめ、取材ノートやメモ類、愛用品などの資料を仁愛女子短期大学の津村節子文学室に提供されてきた。

県が、ふるさとゆかりの作家を扱う総合的な文学館を整備するにあたり、一元的に保存・活用することが最も望ましいと、関係者の気持ちが一一致し、県へ寄贈いただけることとなり、10月23日の定例会見で知事が発表。

2 寄贈資料の内容

・直筆原稿

越前焼の復興に取り組む女性を描いた「炎の舞い」や、山川登美子の生涯を描いた「白百合の崖(きし)」、吉村昭氏の闘病生活を綴った「紅梅」など38点

・愛用品等

「玩具」で芥川賞を受賞した際の賞状や、取材ノート、文具品など数百点

3 資料の活用

10月22日に津村氏から直接寄贈を受けた直筆原稿を含めて、これまでに県は16点の資料を所有。今回の数百点の資料と合わせて、作品が育まれてきた背景や魅力を調査・研究し、県民に紹介していく。

具体的な活用方法は、福井ふるさと文学館の基本計画策定委員会において検討していく。

○津村節子氏プロフィール

- 昭和 3年 福井市生まれ。10歳で東京へ転居
 26年 学習院短期大学文学科に入学。文芸部雑誌「はまゆふ」を創刊
 34年 「華燭」処女出版。
 39年 第11回新潮社同人雑誌賞「さい果て」
 40年 第53回芥川賞「玩具」
 平成 2年 第29回女流文学賞「流星雨」
 10年 第48回芸術選奨文部大臣賞「智恵子飛ぶ」
 15年 福井県県民賞。第59回恩賜賞・日本藝術学院賞
 23年 第37回川端康成文学賞「異郷」
 第59回菊池寛賞「紅梅」
 ※ふるさと五部作「炎の舞い」「遅咲きの梅」「白百合の崖」「花がたみ」「絹扇」

1、時代の範囲について

時代は近世以降とし、現在活躍中の作家も含める

2、対象作家の選定について

著作の評価が定まっており、次のことを基準に該当する作家を選定する

- ・小説、詩歌、評論などの全国レベルの文学賞受賞者またはノミネート作家
- ・国内や県内の文化に多大な影響を与えた作家

	分野	氏名	選定等の理由(業績、受賞歴など)
1	小説	津村節子	『玩具』(芥川賞)、『異郷』(川端康成文学賞)、『紅梅』(菊池寛賞)など。福井をテーマとした作品多数。
2	小説	中野重治	『むらぎも』(毎日出版文化賞)、『梨の花』(読売文学賞)など。
3	小説	高見順	『故旧忘れ得べき』が第1回芥川賞候補。日本近代文学館の創立に尽力。『死の淵より』(野間文芸賞)など。
4	小説	水上勉	『雁の寺』(直木賞)など受賞。1985年郷里に若州一滴文庫設立。
5	詩	三好達治	雄島村へ移り住み、5年間滞在。福井の文学に影響を及ぼす。『定本三好達治全詩集』(読売文学賞)など。
6	脚本	近松門左衛門	江戸時代前期の元禄期の人形浄瑠璃・歌舞伎の作者。『国性爺合戦』『首根崎心中』など。
7	評論・ノンフィクション	杉田玄白	江戸時代の蘭学医。若狭国小浜藩医。『解体新書』『蘭学事始』など。
8	短歌	橋曙寛	幕末の福井に生まれた歌人、国学者。遺稿集に『志濃夫廼舎歌集』。
9	小説	多田裕計	『長江デルタ』(芥川賞)。俳句・文芸誌「れもん」を創刊主宰。
10	小説	有明夏夫	『大浪花諸人往来』(直木賞)受賞。福井をテーマとした作品に『幕末早春賦』『俺たちの行進曲』など。
11	小説	山崎光夫	福井市出身。「安楽処方箋」(小説現代新人賞)、『藪の中の家』(田次郎文学賞)。直木賞候補3回。
12	小説	藤田宜永	『鋼鉄の騎士』(日本推理作家協会賞)、『求愛』(島清恋愛文学賞)、『愛の領分』(直木賞)など。
13	評論・ノンフィクション	岡倉天心	美術指導者、『国華』創刊、日本美術院創立。福井藩士の息子。著書に『茶の本』など。
14	評論・ノンフィクション	桑原武夫	フランス文学の研究・翻訳、日本文化や芸術評論で知られる。文化勲章受章。
15	評論・ノンフィクション	山崎朋子	『サンダカン八番娼館』(大宅壮一ノンフィクション賞)。
16	評論・ノンフィクション	石川九楊	『書の終焉』(サントリー学芸賞)、『日本書史』(毎日出版文化賞)。
17	詩	中野鈴子	戦後、新日本文学会福井県支部を結成し、文学誌「ゆきのした」を創刊。
18	詩	則武三雄	三好達治の招きで雄島村に住む。福井市に移り、文学サロン・北荘文庫を主宰。
19	詩	岡崎純	『重箱』(福井県文協新人賞)、『極楽石』(中日詩賞)。広部英一らと詩誌「木立ち」を創刊。
20	詩	広部英一	『邂逅』(地球賞)、『首蓓』(富田碎花賞)。
21	詩	荒川洋治	『娼婦論』(小野梓芸術賞)、『水駅』(H氏賞)、『渡世』(高見順賞)など。文芸評論や放送でも活躍。
22	短歌	山川登美子	与謝野晶子と並んで「明星」初期の女流歌人として活躍。与謝野晶子、増田雅子と『恋衣』を刊行。
23	短歌	吉田正俊	「アララギ」に入会し、土屋文明に師事。後に同会選者となり発行人も務める。『朝の霧』(遼空賞)。
24	短歌	岡部文夫	歌誌「海潮」を創刊主宰。『雪天』(遼空賞)。
25	短歌	俵万智	「八月の朝」(角川短歌賞)、『サラダ記念日』(現代歌人協会賞受賞)。
26	俳句	皆吉爽雨	俳誌「雪解」を創刊主宰。第1回飯田蛇笏賞受賞。句集に『雪解』『寒林』など。
27	俳句	伊藤柏翠	三国町(現坂井市)に移住し、俳誌「花鳥」を創刊主宰。文部大臣地域文化賞受賞。
28	俳句	森田愛子	鎌倉での転地療養中、伊藤柏翠と出会い俳句を始め、高浜虚子に師事。高浜虚子の名作「虹」のヒロイン。
29	児童文学	山本和夫	児童文学雑誌「トナカイ村」を創刊。『海と少年』(サンケイ児童出版文化賞大賞)。
30	児童文学	加古里子	『かこさとしかがくの本』(サンケイ児童出版文化賞)。代表作に『だるまちゃんとてんぐちゃん』など。

計30名

県内における資料収集状況

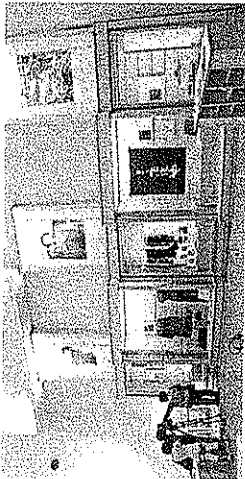
資料3

	県の収集状況				県内文学館等の所蔵状況	
	初版本 雑誌等	所蔵点数 (直筆もの)		所蔵点数 (関係者の直筆もの)		
津村節子	270	16	原稿・色紙・書簡	2	色紙(夫・吉村昭)	仁愛短期大学:直筆原稿(「炎の舞い」等)38点を含め関連資料約2000点。今立図書館:直筆原稿「花がたみ」
中野重治	245	38	原稿・色紙・書簡	2	原稿(師・室生犀星)書簡(妻・原泉)	中野重治記念文庫:「梨の花」原稿、旧蔵書
高見順	213	15	原稿・色紙・取材ノート	4	原稿・色紙・はがき(異母兄・阪本越郎)	みくに龍翔館:「本日は晴天なり」原稿、硯、着物など119点
多田裕計	46	11	原稿・色紙・短冊	0		
水上勉	471	13	原稿・色紙・書	0		若狭一滴文庫:書画、旧蔵書、関係画家の絵など 越前町自然文学資料館:色紙、掛軸
有明夏夫	49	7	原稿・色紙・はがき	0		
藤田宜永	292	6	原稿・色紙・サングラス	0		
桑原武夫	104	12	原稿・色紙・書簡	0		
山崎朋子	82	3	原稿	0		
石川九楊	141	3	書・書簡	0		
三好達治	114	22	原稿・色紙・短冊・書簡	0		みくに龍翔館:「旅人」原稿、掛軸、書簡など18点
中野鈴子	8	7	書簡	0		中野重治記念文庫:書簡
則武三雄	45	936	※表札・色紙・書簡・原稿	0		円山公民館則武三雄文学記念コーナー:
岡崎純	19	4	原稿	0		
広部英一	30	3	原稿	0		
荒川洋治	92	1	原稿	0		みくに龍翔館:「手紡績」1点
山川登美子	24	0		4	短冊(鉄幹2、晶子2)	山川登美子記念館:辞世の句、短冊など30点 福井大学附属図書館:ノート
吉田正俊	40	0		0		
岡部文夫	92	10	原稿・色紙・書簡	1	封筒(棟方志功)	
俵万智	164	0		0		
皆吉爽雨	47	25	原稿・掛軸・短冊・書簡	0		伊藤柏翠記念館:短冊10点
伊藤柏翠	29	6	色紙・掛軸	0		伊藤柏翠記念館:短冊約300点 みくに龍翔館:色紙、書簡など
森田愛子	23	0		15	短冊(師・高浜虚子)	伊藤柏翠記念館:短冊 みくに龍翔館:「こどもの頃の思い出」直筆原稿1点、書簡、色紙
山本和夫	54	7	原稿・書簡	0		小浜市立図書館:山本和夫文庫
加古里子	139	0		0		
山崎光夫						
近松門左衛門						
杉田玄白						
橘曙覧						
岡倉天心						
	2833	1145		28		

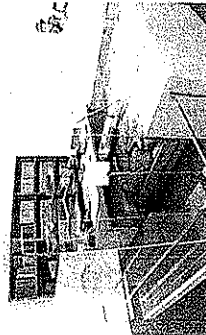
※則武三雄の直筆もの所蔵点数は、平成20年度に則武三雄氏のご遺族より寄贈を受けた「則武三雄文庫」の資料のうちの直筆原稿、遺愛品等の資料927点を含む。

かごしま近代文学館の展示構成

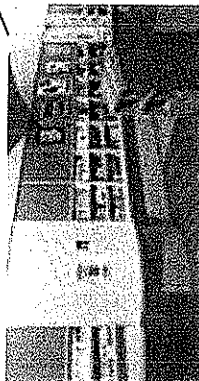
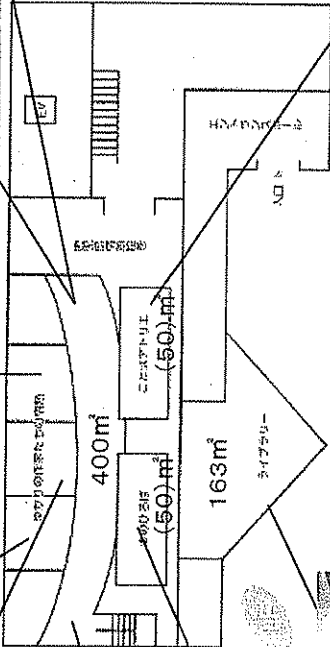
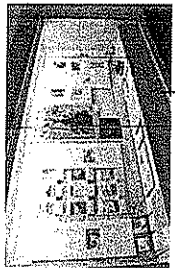
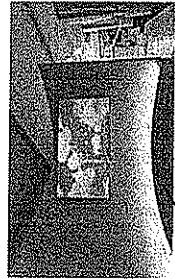
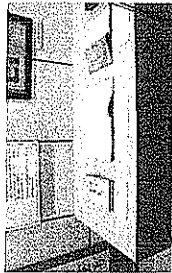
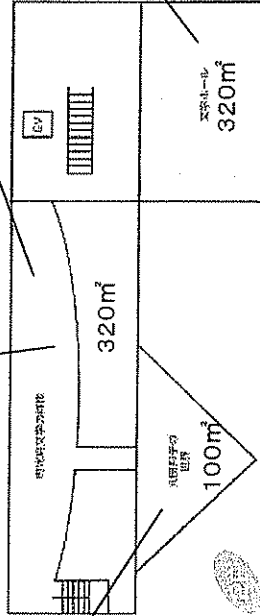
向田邦子の部屋。直筆原稿や遺愛品など貴重資料を展示。



展示に加え、作家の特質を表現する展示物を設置。(写真上)海音寺朝五郎の書斎復元。(写真下)鹿兒島に多くの動物物の舞台を書いた椋鳩十のフィードノート展示で表現。



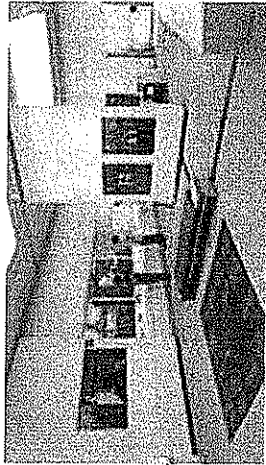
文学館2階常設展示室では、鹿兒島ゆかりの22人を紹介。小説、短歌、俳句、詩などの分野ごとに、肖像・プロフィールパネルとともに関連資料が数点ずつ展示されている。



ゆかり作家の展示の向かい側では、子ども達に文学に親しんでもらうためのスペースを設置。視察時には、写真の情景を詩で表現する「ひとこと詩人」の発表の場。

資料4-①

文学ホール。展覧会、講演会などのイベントスペース。



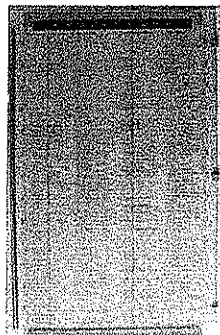
1階常設展示導入部(上)鹿兒島の文学のあらましを映像で紹介。ゆかりの作家の肖像に作家の「ことば」をあわせて展示。

1階常設展示では、鹿兒島ゆかりの代表的作家5人(海音寺潮五郎、林芙美子、椋鳩十、海崎春生、島尾敏雄)について、映像などを交えて詳しく展示。海音寺潮五郎の壁面展示(右から3枚目)。パネル、著作現物、原稿、遺愛品などを展示する。



ことばのアトリエ(電子黒板を活用)

青森近代文学館の展示構成

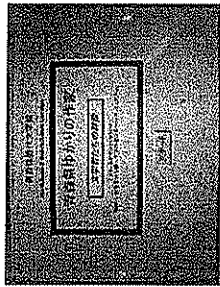


近代文学略年表
(小山内初代館長の研究成果)

作家生誕地や作品の舞台地の紹介パネル
(文学資料調査員等による調査結果)

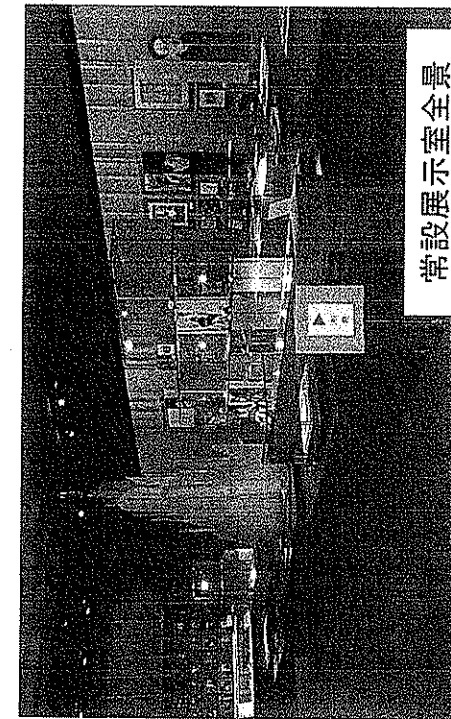
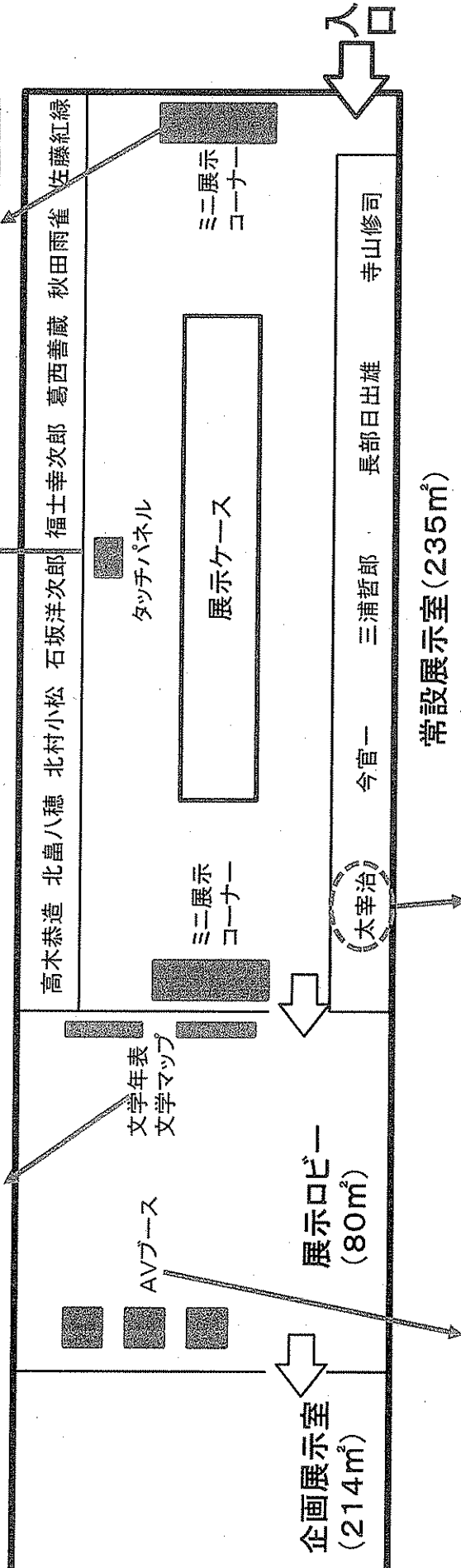
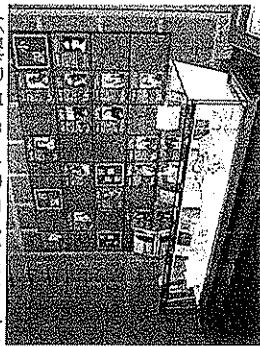


ゆかりの作家約300名を
タッチパネル形式で紹介。
その解説原稿を文学資料調査
員等が作成



資料4-②

メイン13人以外の作家(32人)
は、2か月ごとに1名を紹介



展示の構成について (案)

資料5

常設展示ゾーン

約400m²

津村節子ゾーン

津村文学の世界や吉村昭氏との絆、女流作家との交流等

- 直筆原稿、取材ノート、愛用品等、数百点の資料を順次入れ替え
- 交友関係、知人らの証言

文豪ゾーン

日本を代表する福井出身の三大文豪

- 中野重治
- 高見順
- 水上勉

原稿、書簡、初版本など

福井の文芸の礎ゾーン

三好達治の滞在をきっかけにした福井の文芸の基礎と流れ

フレキシブル常設ゾーン

新たに収集した資料や、タイムリーな作家の紹介等

導入ゾーン

- 福井県ゆかり作家30人と作品紹介
- 福井県文学年表
- 福井県文学マップ

企画展示ゾーン

約200m²

- 福井県ゆかり作家の企画展
- 小中学生向け展示 (子どもの読書週間、夏休み等)
- 他文学館との共同企画展 等

教育普及ゾーン

教育普及活動の発表・展示

交流ゾーン

県内文学館の紹介、文学サロン

教育普及活動について

- 1 小中高生向け
 - ・授業と連携した企画
 - ①「小・中学生短歌コンテスト」(北海道立文学館)
 - ・未発表の作品を一人一首募集、優れた作品を表彰し、応募作品を展示
 - ②「リーディングシアターin 文学館」(山梨県立文学館)
 - ・教科書・便覧等で紹介されている山梨ゆかりの作家等の朗読発表会
 - ・文学館を学習の場とした企画
 - ①「文学道場」(北海道立文学館)
 - ・創作講座「物語を作るために」特別講師から文芸創作の基礎や執筆のテクニックを学ぶ
 - ②「土曜ジュニア文学館」(世田谷文学館)
 - ・言葉によるワークショップ 絵本製作、詩・短歌の作成
 - ・ジュニア寄席 落語鑑賞と落語体験
 - ・日本歳時記(伝統文化体験) 巨大カルタによる百人一首
 - ・ジュニア堂書店 ジュニアから愛読書を募集し、大人に向けて、情報発信(逆提案型読書推薦企画)
 - ・文学館体験隊 展示作品に関するクイズなどを巡る館内オリエンテーリング
- 2 一般向け
 - ・専門性の高い企画
 - ①「文学館へ行こう！」(日本近代文学館)
 - ・学部学生、大学院生、一般のためのオリジナルガイド
 - ・創作活動
 - ①「仙台文学館ゼミナール」(仙台文学館)
 - 文学の読み解き方、表現方法などを極めるカリキュラム
 - ・文学館のアウトリーチ
 - ①「世田谷文学週間」(世田谷文学館)
 - ・区内総合支所を会場に講演会、連続講座などを実施(身近な場所での文学に親しむ)